

第 19 回企画運営委員会（13.6.11）のまとめ

平成 25 年度最初の企画運営委員会は通算で 19 回目となり、6 月 11 日（火）に江南区役所多目的ホールで開催されました。

今回は、平成 25 年度の事業展開について事務局案を説明した後、具体的にどのように展開していくか、福祉の現場に関わる企画運営委員の意見を出し合い、検討を行いました。話し合いの内容は以下のとおりです。配付資料とあわせてご覧ください。

平成 25 年度事業の企画内容について

【ささえ合いマップづくり】

- （事務局より）昨年度は初めての事業ということで手探りで進めてきたが、今年度は「もっと取り組みやすい方法を探りたい」ということで、さらに実践を行うこととした。
- 〈質問〉昨年のマップづくりで作った地図は活用しているか？
→作った地図自体は「成果」ではないので活用していない（公表できるものでない）。作成のプロセスを通じて、地域の情報収集ができたり、参加した人どうしの関係づくりと連携を深めることができた。また、もともと支え合いができていた地区であることがわかった。
- （事務局より）マップづくりは、地域の福祉課題を見つけ解決に向けた取り組みにつなげるのが目的である。したがって、地域内で取り組みを実行できる主体（自治会や町内会）で行いたいので、自治会長さんに話をしていかなければならない。
- 社会福祉協議会さんで行う「見守り事業」と調整しながら（連携しながら）進めたい。
※社協さんの「見守り事業」については現在内部で検討中とのこと。
- マップづくりは2ヶ所以上で行うことを考えており、包括支援センターの役割にも大きく関わってくるので、その区割り（大江山・横越／亀田／曾野木両川）で実施できないか検討中である。候補としては、横越の川根谷地、亀田の6区、曾野木であるが、これから交渉を始める。
- 早通では有志でマップづくりを行った。行政などの第三者が入るとやりづらいので自分たちだけ。隣の地区にも見せないことにしている。実施したことで課題が見え、新

しい取り組みが生まれた。高齢者の見守りを行うには、ヤクルトのような“ツール”があるといいこともわかった。日々状況は変わるので、更新の必要性は感じている。学び舎事業のマップづくりにおいても、「更新しない（＝マップが目的ではない）」という言い方は理解が得られないのではないか。

○「マップづくり」という言い方は確かに誤解されやすい。

→地域内で漠然としていた課題や問題が「見えるようになる」ということなのだが....。

【子育て支援】

○（事務局より）平成25年度からスタートする「子育て支援」のプロジェクトについては、江南区内の取り組みや課題があまり見えていないので、未就学児を対象とした子育ての「支援する側」「支援を受ける側」の生の声を聴くことからスタートしたい。

→“生の声”を聴くには集まってもらうのではなく、集まりがあるところに出向いてグループインタビューの形式で聴き取る。「いま実際のところどうなのか？」「何が必要なのか？」を聴き出す。その後、一般市民も交えて「ミニ茶話会」で意見交換を行う。

○どんなところに出向いていったらいいか？どんなグループや人がいるか？

*市のファミリーサポート制度

→江南区ではほとんど活用されていない。区内から3人参加したが登録はない。

→区独自での同様の取り組みはない。

→区独自で子育てサポーター養成講座があってもいいのでは。

・区内では「おもちゃ箱」さんがやっている。

・市+社協で全5回の講座をやっている。

*<支援する側>

・児童福祉係で虐待防止の研修会を行うが、その場で聴き取るのはどうか？

・支援者側にも悩みがある。子どもの入園が早くその後の経過が負えない。母親が忙しすぎて声が聞けない。

*<支援を受ける側>

・いちごっこ広場（横越？）

・かめっこ広場

・各地区の公民館で行っている、未就学児の親の集まり「チューリップ」（自主グループ）はどうか。公民館に聞いてみるとよい。

○“生の声”が出るか疑問だ。

・そもそも江南区では子育てに困っていない人多そうだ。

- ・ 保育園（入園）の話や行政に対する要望だけで終わりそう。

→すべての要望に応えるものではなく、あくまでも現状把握であることを理解していただく。

以上です。今回の意見交換の内容を踏まえ、今年度の事業を進めていくことになりました。今後ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。